シ、ヤ　此大愁歎に親友の死といふことが加はつたなら、ほゞ人をして愀然たらしむるに足るだらう。

ヒポリ　あの男を氣の毒だと思はないやうなら、わたしを情知らずだとおつしやい。

ピラマ　「あゝ、造化よ、何とておぬしは獅子なぞを造りをつたぞ？　獅子あれば こそ此方の戀人どのは盛りの花を散らされたわ。　あの君こそは又とない微妙い美人であるものを……　いやゝ……　あつたものを、此現し世に生き存へて、いとしがり、いとしがられ、いそ〳〵としていまされた微妙い美人であつたものを。……さア、涙よ、搔亂せ。　やい、劍よ、ピラマスの乳首を切れ。　むゝ、その左の乳首をこそ、心の臟の跳る其左の。　（と自ら乳の下を刺して）斯うして吾等は死ぬるのぢや、かうして、かうして、かうして。　もう吾等は死んだのぢや。　もう吾等は脫出したのぢや。　吾等の魂は最早空中にゐる。　太陽よ、光を失くせい、月よ、とッとゝ去ね……

月役入る。

さ、死なう、死々々々々。」

ピラマス死んでしまふ。

デメト　四々々々といつてるけれど、二つだけの價値もありやしない、てんで奴一人ッきりなのだから。

ライサ　一だけの價値もないよ、死んじまつたのだから。　奴は零だよ。

シ、ヤ　外科醫者の手に掛けたら蘇生するかも知れん。　さうすりや、人間並にや扱へないまでも、小馬一ぐらゐにや當るだらう。

ヒポリ　どうして月が入ッちまつたんだらう、シスビが戻つて來て戀人を見つけなけりやならないのに？

シ、ヤ　星明りで見附けるんだらう。……あゝあそこへやつて來た。　彼女が歎くのが此劇の結局だ。

シスビ又出る。

ヒポリ あんなピラマスが死んだからッて、よもや長々とは歎いちやゐますまいよ。白は短いでせう。

デメト 秤皿が卵の毛でも傾ざませうよ、あのピラマスと此シスビとを權ることになると。彼男が男子だといふのも勿體ないこつてすが、此れが女だてえのは、いやはや、情ないこつてす。

ライサ もう死骸を見つけました、あの艶麗な目で。

デメト そこで、其白に曰く……

シスビ 「え、眠てお在かえ？　え、死んでかいな、愛しい戀人？　おゝピラマス殿、起きてたべ！　物いうてたべ、物をいうて。一言もおしやらぬな？　死んでかいな、死んでかいの？　いとしい其眼も最早墓地の中に埋れにやならぬ。この百合色の口も、この櫻實の鼻も、この黄色の九輪櫻の頬も最早亡い、最早亡い！　戀人たちよ、泣いてたもれ！　目は韮のやうに綠色であつたものを。おゝ三姉妹よ、さ、來う、乳汁のやうに白い手を血汐の中に浸しをれ、戀人の玉の緒を鋏み切りをつたのは汝らの所爲ぢやゆゑに。……舌よ、何にもいふな。忠實な劍よ、さ、さ、妾の胸をば血汐に染めい。……

自ら胸元を短劍にて刺す。

親しい人たちよ、さらば〳〵。かうしてシスビは果てまする。さらば〳〵。」

シスビ死す。

シヽヤ 月と獅子だけが殘つてゐて、あれらが死骸をかたづけるのだな。

デメト さやうです。石壔もゐます。

ボトム （此問答を聞きて突然立ち上りて）いんにや、間の隔になつてゐた石壔ア、あれア最

早毀れッちまひましたゞ。……これから閉場詞イ御覽に入れますかね、で無くば、わしらの仲間の者二人で以てバーゴマスク踊るだが、それ聽つしやるかね？

シ、ヤ　閉場詞は止して貰はう、此劇にや分疏は要らんから。　分疏にや及ばんよ、俳優は悉皆死んじまつたんだから、非難のしやうがない。　が、もし此作を書いた作者がピラヤスの役をして、さうしてシスビの靴下締で首を縊りでもしたら、それこそ好い悲劇だつたらう。　いや、實際、面白い、中々よく出來た。　が、そのバーゴマスクといふのを見よう。　閉場詞は止してくれ……

これにて役者連又出で來りて道化踊一くさりありて收まる。

深夜鐘の鐵の舌が十二時を報じた。　戀人たちよ、もう寢みなさい。　もうそろ〳〵妖魔時だ。　明朝は、今夜夜深をしたゞけ眠過しさうだ。　此たはいもない劇が、それでも、夜の足の緩いのを紛らしてくれた。　一同お寢みなさい。　一週間は此祝ひを續け一毎晩盛な宴會を催し、いろ〳〵新しい面白いことをさせよう。

シ、ヤス、ヒポリタ以下一同入る。空舞臺になると、パック手に箒を持つて出る。

パック　飢えた獅子めの唸る頃、
月に狼の吠えるころ、
どえらい仕事に疲勞れて
眠い農夫は鼾かく。
消えさうな篝の燃木が光り、
キャア〳〵梟がキャア〳〵啼いて。

枕の擧らぬ不幸な患者に
死裝束をば思ひ出させる。
今こそ墓所が皆口開いて、
お堂の方へと幽靈どもが
揃つてぞろ〳〵辷り行く。
三體具足のヒカトの神の
二頭立馬車と足並比べ、
太陽が出りや逃げるが、
暗くなりや出かけ、
夢と同じに夜中を我世に、
戯けて浮かれる妖精よ、われら。
鼠一疋騷ぐな今宵、

めでたい此家の戸背の塵を
掃除するのが吾等の役目。

と言ひながら跳れ廻るやうにして室の掃除をする。

此途端にオベロン、チテーニア、其他の小妖精ら出て來る。

オベロ　館の中がまだ薄明るいけれど、もう火は消えかゝつて眠さうな樣子をしてゐる。さア〳〵、妖精どもは一同跳廻れ〳〵、荊棘から鳥が飛ぶやうに。さうして予が音頭を取るから、それに從いて歌つて、輕く踊れ。

チテー　まづ、お前さん、諸でお歌ひよ、一言々々に節を附けて。一同が手を取り合つて、靈妙な聲で歌を唱つて、此家を祝福してやりませう。

一同聲を揃へて歌ひ、やがて總踊になる。よき頃に

オベロ　さア〳〵、これから夜明までは、めい〳〵此館の中をぶらつき歩かうぜ。お前と予は、第一等の花嫁の寢床へ往つて祝福してやらうよ、其床で懷胎

して生んだ子供は、いつまでも運が好いことにしてやらう。　それから三組とも、共白髪まで愛情が渝らないやうに、又痣だとか、兎唇だとか、瘢だとか、其他生れるや否や人に蔑み嫌れるやうな、自然の汚點ともいふべき人並ならぬ可厭目章が、かりにも其子供らの身には生まれつかぬやうに、めいめい手を別けて、此野の露で以て、それ〴〵の寢臺を淨め、且めでたい平和が此館の中に滿ち溢るゝやうに祝福してやれ。　さうすれば、其祝福された此館の主は、永久に安全に暮すことになる。　馳けて行きな、ぐづ〴〵してゐるな。　夜が明けると、又一同一しよになるんだぞ。

オベロン、チテーニヤ及び從者ら皆入る。　パックだけ殘る。

パック（觀者に對ひて）　もし私ら影坊師どもが、御覽に入れましたものが御意に叶ひませんでしたなら、どうかあれは一寸此處で御一睡の間に御覽じた夢だと思召して下さい、さうすれば、御機嫌が治りまする。　脆い、たはいもない當

狂言は、徒の夢同樣のものでございますから、どうぞお叱り下さいますな。お赦免下さいますれば、おひ〴〵改良いたしまする。　私パックめは正直者でございますから、もし幸ひに蛇の鳴聲を頂戴しないで濟みますれば、今に大改良を御覽に入れまする。　でございませんでしたら、パックは虚言者だとおつしやいまし。　では皆樣、御機嫌ようお寢みなさいまし。　お贔屓下さいますなら、お手を戴きたうございます、ロビンめが必定お報いを致します。

パック入る。

眞夏の夜の夢（完）

＊
＊＊
＊＊
＊＊
＊＊
＊＊
＊＊
＊＊
＊＊
＊＊
＊＊
＊＊
＊＊
＊＊

大正四年十一月廿五日印刷
大正四年十一月廿八日發行
大正七年八月十八日再發行
大正八年八月十日發行
大正九年二月十日發行
大正十年十一月十日發行

〔不許複製〕

眞夏の夜の夢奥附
〔正價金貳圓五拾錢〕

譯者　東京市牛込區余丁町百十四番地　坪内雄藏
發行者　東京市牛込區辨天町百五十七番地　種村宗八
印刷者　東京市牛込區榎町七番地　渡邊八太郎

發行所　東京市牛込區早稲田　早稲田大學出版部
（振替口座東京一一二三番）

〔日本出版會印刷〕

文學博士 坪内逍遙譯

沙翁傑作集

四判美裝　口繪及挿畫多數　各貳圓五拾錢　郵税十二錢

既刊（十八冊）

1 ハムレット
2 ロミオとジユリエット
3 オセロー
4 リヤ王
5 ジユリヤス・シーザー
6 ゔエニスの商人
7 テムペスト
8 アントニーとクレオパトラ
9 眞夏の夜の夢
10 マクベス
11 以尺報尺
12 冬の夜ばなし
13 リチヤード三世
14 ヘンリー四世（一部）
15 ヘンリー四世（二部）
16 お氣に召すまゝ
17 ぢやく〳〵馬馴らし
18 十二夜

近刊

19 シンベリン
20 コリオレナス

東京牛込　振替東京一一二三　早稲田大學出版部

賣捌所

東京神田　富山房
東京神田　東京堂
東京日本橋　至誠堂
東京京橋　北隆館
東京京橋　東海堂
大阪東區　盛文館
名古屋市　星野書店

（其他各地書肆）

終